

# 平成20年度豊岡市予算案がまとまりました

## 12会計 総額で753億円

ふるさとの魅力を際立たせるための「平成20年度豊岡市予算案」がまとまりました。皆さんが納める税金や国・県からの補助金などが、まちづくりのためにどのように活用されるのかを紹介します。なお、この予算案は、豊岡市議会3月定例会で審議されています。《問合せ》財政課

### 予算の概要

一般会計は

413億7883万円

平成20年度の予算（表1参照）は、一般、特別、企業会計を合わせた12会計の総額が753億799万円、前年度と比べ7・1%の減となりました。

このうち、一般会計の予算額は、413億7883万円で、前年度と比べ1・0%減となっています。

平成20年度は、活力ある地域経済社会の実現を目指して、私たちのふるさが持つ特色ある魅力をさらに際立たせる予算になっています。

なお、行政改革の実施では、事務事業の整理合理化や補助金改革などにより、2億8300万円の効果額を生み出しました。

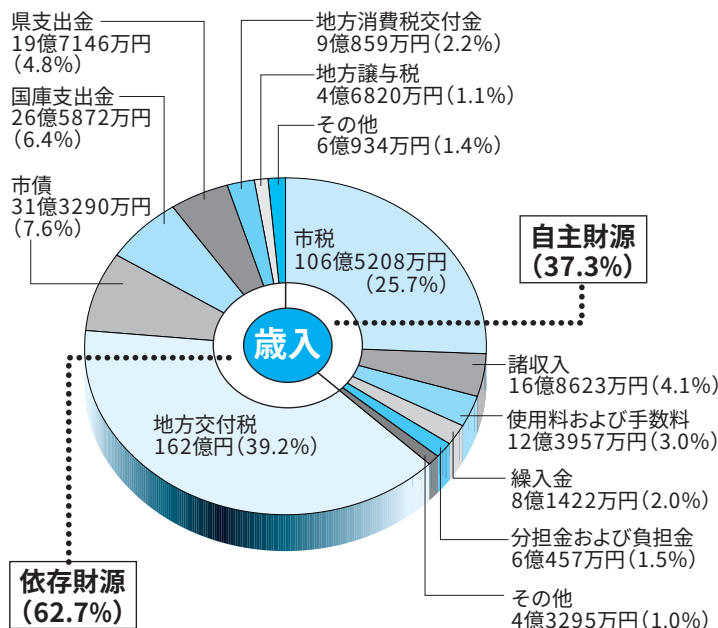
市債残高は

1457億円

市債（借金）は、市民の福祉向上のための施設整備（道路・学校などの整備）に活用するものです。市債には将来

### 一般会計・目的別予算の内訳

（グラフ1）



### 会計別予算一覧

（表1）

| 区 分            | 予 算 額      | 前年度比     |
|----------------|------------|----------|
| 一般会計           | 413億7883万円 | △1.0%    |
| 特別会計           | 190億3485万円 | △23.5%   |
| 国民健康保険事業(事業勘定) | 88億 847万円  | +1.3%    |
| 国民健康保険事業(直診勘定) | 8895万円     | +4.8%    |
| 老人保健医療事業       | 8億1045万円   | △90.7%   |
| 後期高齢者医療事業      | 8億6003万円   | 皆増       |
| 介護保険事業         | 63億 995万円  | +3.2%    |
| 診療所事業          | 1億5585万円   | +0.4%    |
| 墓地公園事業         | 1億8035万円   | +3264.8% |
| 簡易水道事業         | 12億5591万円  | +25.4%   |
| 宅地事業           | 5億6489万円   | +410.8%  |
| 企業会計           | 148億9431万円 | +3.6%    |
| 水道事業           | 48億9511万円  | +3.4%    |
| 下水道事業          | 97億6825万円  | +3.6%    |
| 農業共済事業         | 2億3095万円   | +8.0%    |
| 合 計            | 753億 799万円 | △7.1%    |

### 市債残高

（表2）

| 会 計     | 市債残高   |
|---------|--------|
| 一 般     | 637億円  |
| 特 別     | 72億円   |
| 企 業     | 748億円  |
| 合 計     | 1457億円 |
| 市民1人当たり | 160万円  |

平成20年度末見込み

### 一般会計・歳入

財政調整基金から

4億円取り崩し

一般会計の財政構造は、他からの依存財源である地方交付税、国庫支出金、市債等が歳入の約62・7%を占める極

的に施設を利用する市民の方にも返済を負担していただき、世代間の公平を図る大切な役割があります。

平成20年度末の市債残高（表2参照）は、一般会計が637億円、前年度と比べ5・2%減となる見込みです。これに特別・企業のすべての会計を合わせた全市債残高は、1457億6153万円、前年度と比べ2・9%減となる見込みで、市民1人当たり（平成20年2月1日現在）は人口90,984人にするると約160万円になります。

めて脆弱なものとなっています。

中でも一般会計の歳入の内訳(グラフ1参照)で、最も大きな割合を占める地方交付税(この自治体でも必要最小限の住民サービスが提供できるように国が交付するお金)は、162億円で、全体の39.2%を占めており、前年度と比べ0.9%減となっています。これは、国が進める交付税改革の影響などを見込んでいるためです。

また、施設整備をするために借入れる市債を31億3290万円見込んでいます。

一方、自主財源の柱である市税は、106億5208万円、歳入全体の25.7%を計上しており、前年度と比べ1.0%増となっています。

また、財源不足を補うため、財政調整基金(将来にわたる財政の健全な運営のための貯



金から4億円を取り崩します。これにより平成20年度末の基金残高(表3参照)は、財政調整基金などすべての基金を合わせると、141億7476万円、前年度と比べ17.6%増となる見込みで、市民1人当たりになると約15万円になります。

### 基金残高

(表3)

| 基金      | 基金残高  |
|---------|-------|
| 財政調整    | 35億円  |
| 特定目的    | 82億円  |
| 定額運用    | 9億円   |
| 特別会計    | 15億円  |
| 合 計     | 141億円 |
| 市民1人当たり | 15万円  |

平成20年度末見込み

### 一般会計・歳出

#### 民生費に

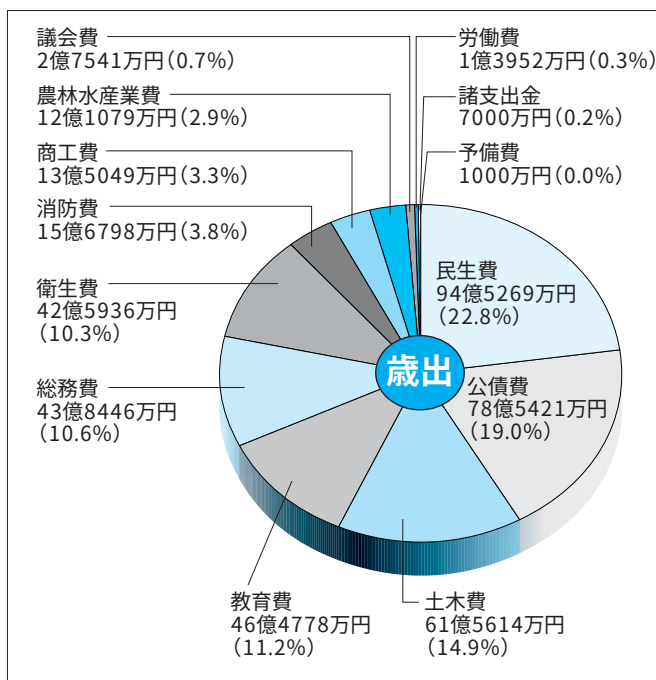
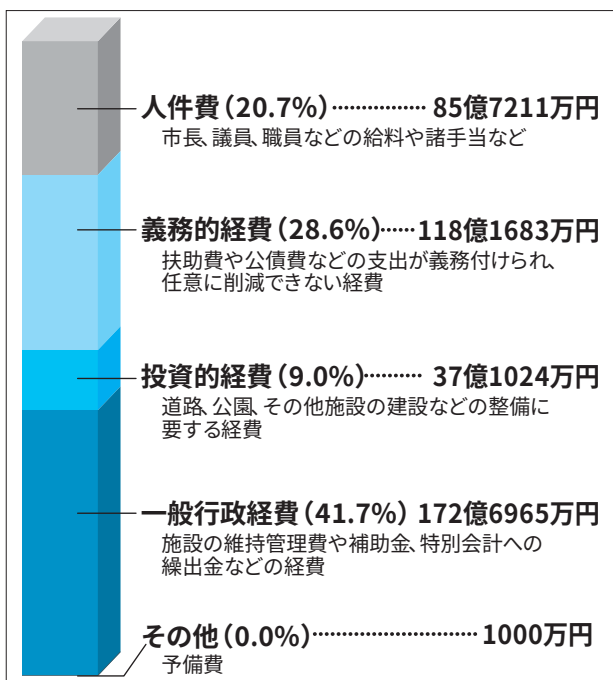
94億5269万円

一般会計の歳出の内訳(グラフ2参照)で、最も多いのは市民の皆さんの福祉の充実などに充てる民生費で、94億5269万円、全体の22.8%を占めています。これに借金返済に充てる公債費が78億5421万円、19.0%、土木費が61億5614万円、14.9%と、高い数値で続いています。

### 一般会計・歳出の性質別内訳

(グラフ3)

(グラフ2)



### 人件費、投資的経費などを圧縮

歳出を性質別に見てみると(グラフ3参照)、人件費は85億7211万円、前年度と比べ2.0%減となっています。義務的経費は、118億1683万円、前年度と比べ2.2%増を見込んでいますが、これは、将来にわたる公債費負担の改善のため、国の制度に基づいて一部を繰上償還することによる公債費の増額が要因の1つです。

また、投資的経費は37億1024万円、前年度と比べ7.8%減となっています。

なお、平成20年度の経常収支比率(※注1)は89.6%を見込んでいます。また、財政の健全度を示す実質公債費比率(※注2)は20.8%となり、国の定める水準の18%を上回ると予測しています。

#### ※注1：経常収支比率

経常的に支出する経費に対する税などの一般財源の充当比率で財政の弾力性を示す指標

#### ※注2：実質公債費比率

財政規模に対する公債費の割合を示す指標で連結決算の考え方を導入している。